

2025年度若手研究者共同研究プロジェクト実施報告書

法政大学総長 殿

以下のとおり研究実施報告書を提出します。

基 本 情 報	研究課題名：催馬楽古楽譜の電子テキスト構築と活用の実践
	研究代表者氏名：本塚 亘
	【在籍者】 研究科・専攻・学年： 【修了者】 所属・職種：人文科学研究科 日本文学専攻 博士後期課程 2016年度修了
	指導教員（所属・職・氏名）： （※在籍者のみ記入）
	共同研究者（所属・職・氏名）：文学部教授 スティーヴン・G・ネルソン （※指導教員と同人の場合は記入不要）
	その他 研究分担者：
	研究期間： 2024年度 ～ 2026年度（※研究終了年度を記載）
年 間 の 研 究 実 施 概 要	<p>※研究計画の進捗状況を中心に今年度の研究実施状況を記載してください。</p> <p>概要</p> <p>催馬楽古楽譜の電子テキスト構築プロジェクト2年目。計画の手順こそ変更したが、進捗状況は順調であるといえる。</p> <p>昨年度に引き続き琵琶譜『三五要録』を対象に、TEI/XMLによる構造化を実践（II）。分析過程の追跡可能性の確保を重点においた。翻刻・整形・分析という3段階の作業フローにおいて、各段階で生成されるデータ（書誌XML・整形XML・分析結果）とともに、整形段階の変換ルールをXSLT、分析段階の解釈基準をYAMLとして外部化し、それらのデータセットをGitHubですべて公開した。以上の試みは今年度主眼とした「追跡可能性」の確保に成功しているといえる。また分析の実践として、各音高別出現数・音価・進行傾向のグラフ化、LCS分析による異なる2曲間の旋律一致の可視化、ヒートマップ表示などを試みた（III）。</p> <p>最終年度（来年度）は、これまでの実践を踏まえた歌謡譜の望ましい記法のあり方の整理（I）、XMLを活用した簡易アプリの試作などを予定している。</p> <p>進捗と展望</p> <p>本研究計画における、I. 望ましいテキスト記法の模索、II. 電子テキストの段階的な構築、III. データセットを用いた分析の実践の3プロセス別に進捗と展望を示す。</p>

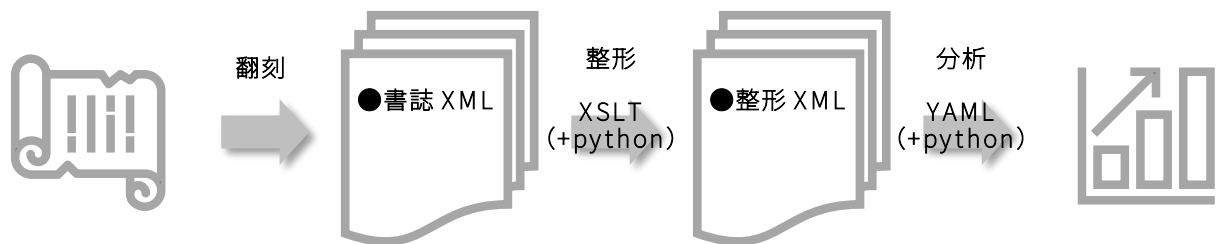
I. 望ましいテキスト記法の模索

【進捗】 催馬楽古楽譜や関連資料の先行注釈・翻刻資料、電子テキストおよび分析の実践例を分析し、それぞれのメリットや課題、望ましいテキスト記法を模索。昨年度同様関連資料の収集にとどめ、II、IIIの実践を先行して進めた。

【展望】 II、IIIの作業を通じて得られた知見をふまえ、既存テキストの課題について検討を進めていく。最終年度はこれを中心に進めていく。

II. 電子テキストの段階的な構築

【進捗】 TEIに準拠したA. 書誌構造、B. 歌詞構造、C. 音楽構造の3構造からなるデータセットを段階的に構築。本年度は、昨年度に続きA. 書誌構造、C. 音楽構造のTEI記述についての試行を進めた。当初計画の目的をおよそ達成したと言える。



宮内庁書陵部蔵伏見宮家旧蔵『三五要録』を対象とし、TEI/XMLへの構造化の結果だけでなく、解読から整形・分析に至る過程を追跡可能にする方法の整備を進めた。特に、XML作成のプロセスを透明化するため、資料の見た目や配置をできるだけ機械的に構造化した書誌XMLと、音楽的な解釈を付与して構造化した整形XMLの2段階のXMLを作成した。また、書誌XMLから整形XMLへの変換規則はXSLTスタイルシートとして記述して外部化、同様に調絃や音価など分析上の設定もYAML形式で記述して外部化した。そして、以上の成果をGitHubにて公開した (<https://github.com/MotozukaWataru/Jmc2025>)。

これらの成果を、2025年12月、人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2025」(於九州大学)にて、「古楽譜解読プロセスの可視化：琵琶譜『三五要録』による催馬楽旋律分析を例に」として報告した。同報告は論文集にも掲載された。

【展望】 書誌XML、整形XMLおよびXSLT、YAML等を分離することで、昨年度課題としていた解釈や分析条件の所在を明確にし、構造化や分析過程の追跡と再検証を容易にした。また、GitHubに公開することで、参照・検証可能な形を整備した。汎用性やテキスト構築の簡便性に課題は引き続き残っており、次年度中できる限りの修正を試みたい。

III. データセットを用いた分析

【進捗】 上記、じんもんこん2025における報告の中でいくつかの分旋律析を試みている。上記整形XMLを元に、分析に用いた解釈をYAMLに記述、Python等を利用して催馬楽の音楽的性質を分析し、各音高の出現頻度や音価を算出した。また、複数曲間の旋律を比較分析して共通部分列を導き出すアルゴリズムを作成し、その結果をヒートマップで示した。

【展望】 当初計画の目的をおよそ達成。引き続き、「I. 望ましいテキスト記法の模索」、II. 電子テキストの段階的な構築」の進捗状況をみながら、分析の試行例を蓄積していく。

成果発表（学会・論文・研究会等）		
学会・論文・研究会等の別	タイトル	発行または発表年月
人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2025」於九州大学	古楽譜解読プロセスの可視化：琵琶譜『三五要録』による催馬楽旋律分析を例に	2025年12月
『じんもんこん2025論文集』	古楽譜解読プロセスの可視化：琵琶譜『三五要録』による催馬楽旋律分析を例に	2025年12月
その他（アピールすることがあればご記入ください。）		

研
究
業
績